

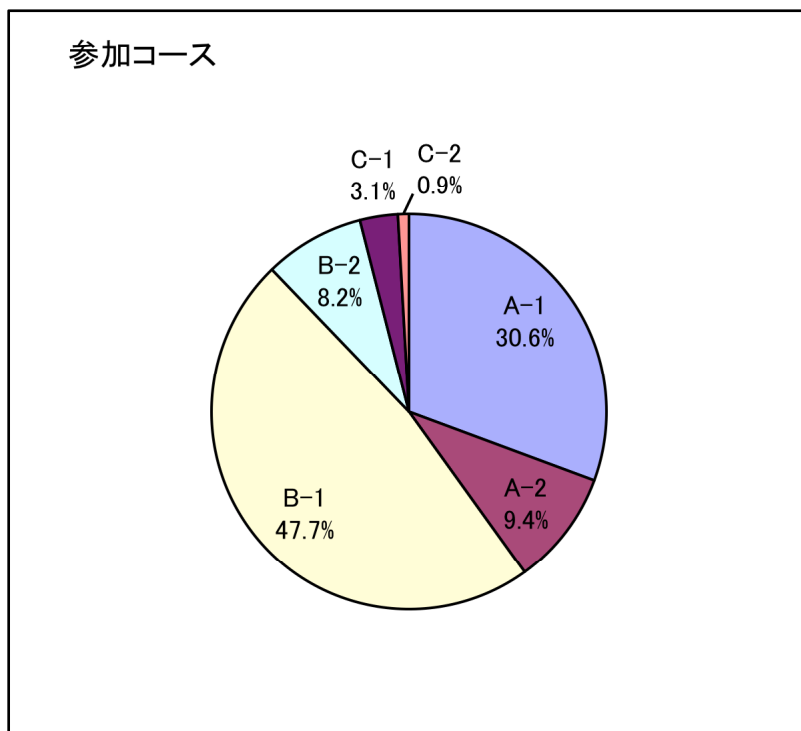
平成21年度「おんたけこども村キャンプ保護者アンケート集計結果

1 調査期間 平成21年7月29日(水)～9月5日(土)

2 回収数 56.8% (回収数955/配布数1,682)

3 集計結果

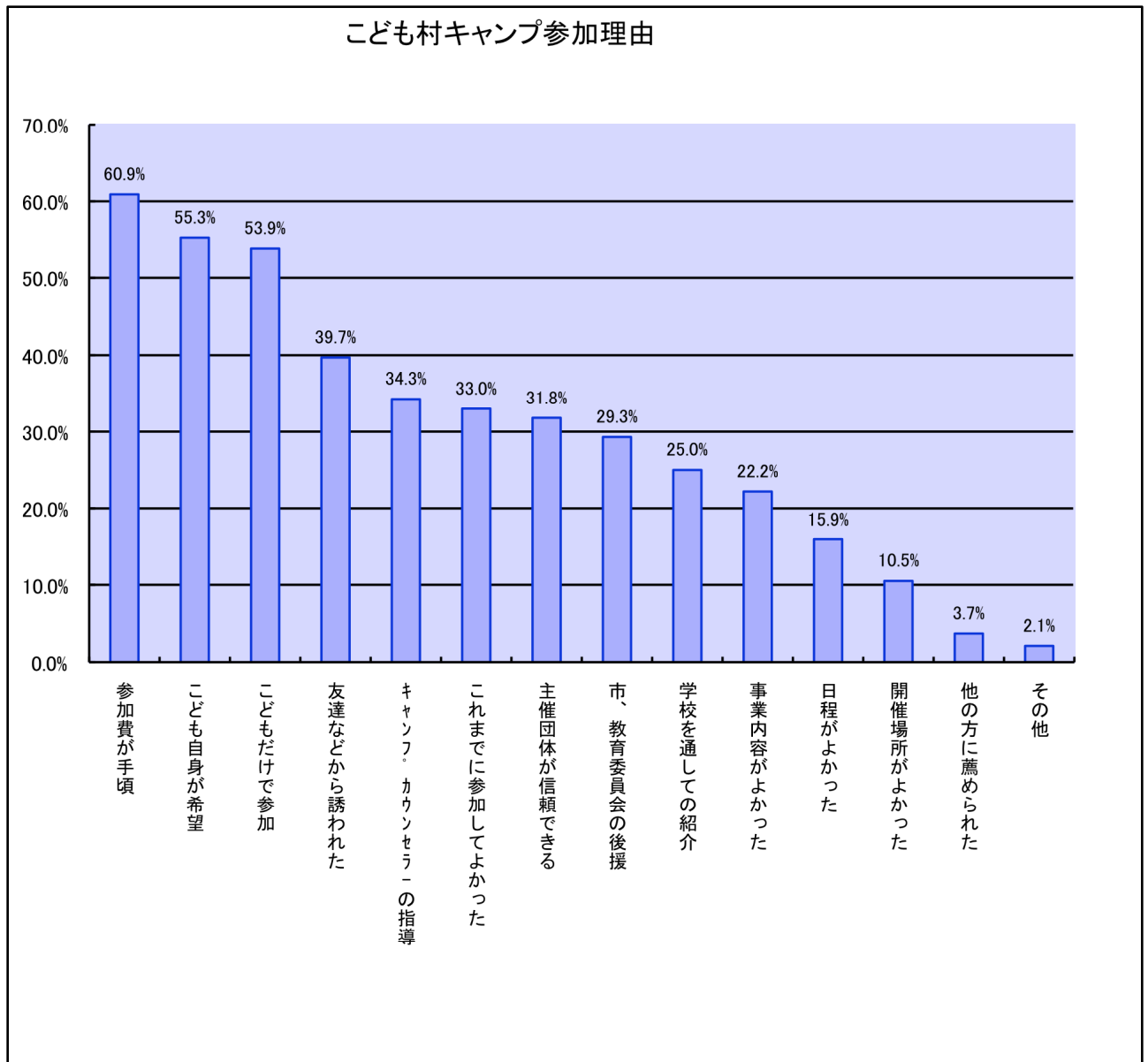
問1 どのコースに参加されましたか。(〇は一つだけ)



A-1	小1～小3	2泊3日
A-2	小1～小3	3泊4日
B-1	小4～小6	3泊4日
B-2	小4～小6	4泊5日
C-1	中学生	3泊4日
C-2	中学生	4泊5日

問2 今回「おんたけこども村キャンプ」に参加された理由は何ですか。

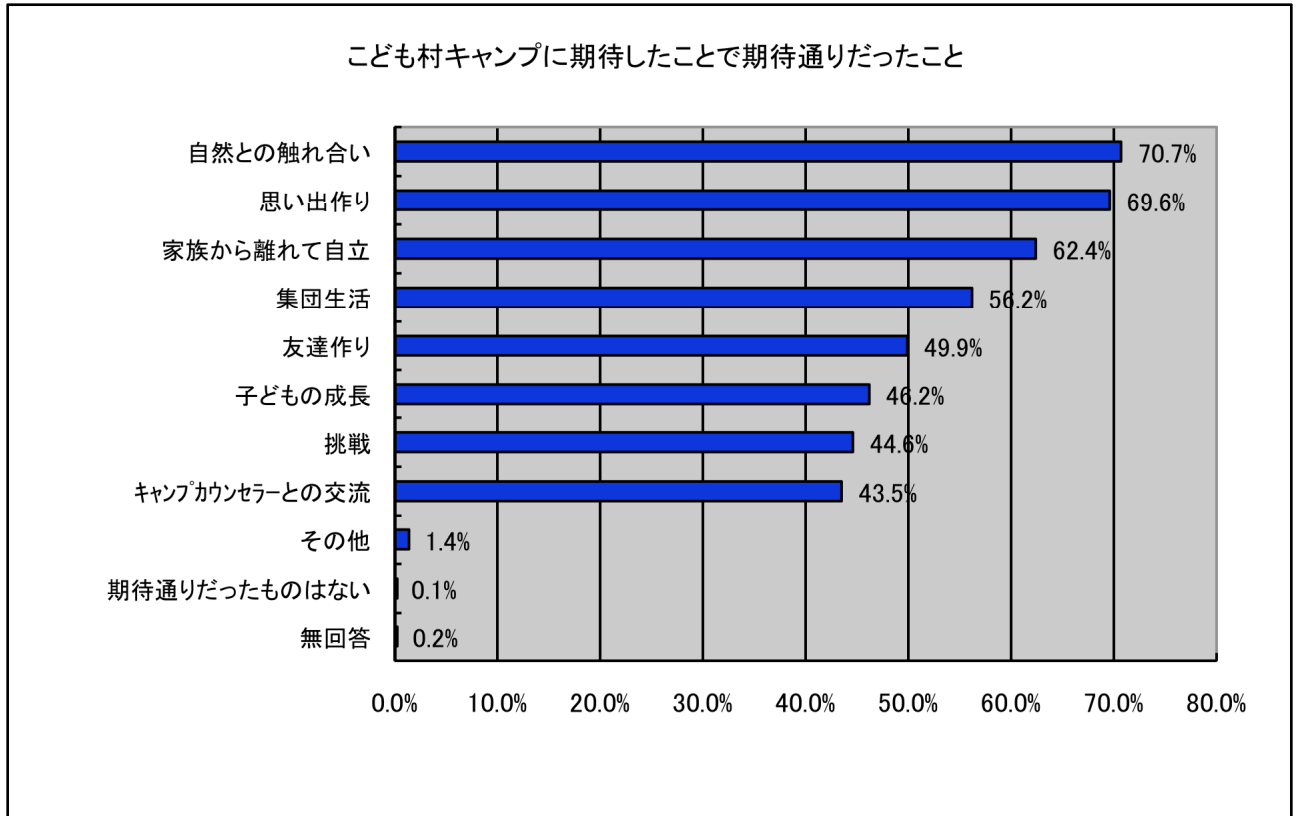
(〇はいくつでも)



その他内容

- ・ 兄や姉が以前行って楽しかったので(6件)
- ・ 自分(親)も子供の頃参加してよかったから(3件)
- ・ キャンプ体験をさせたかった(2件)
- ・ 保育園でおんたけロッジに泊まったので
- ・ 前回行った子が楽しそうに話していたから
- ・ 料理の経験が多いので
- ・ 是非、天の川を見せたかった、その結果見ることができ良かったです。
- ・ 他の団体のキャンプとは違い、飯ごう炊飯など野外で自分たちでの活動が多いことに好感を持った。

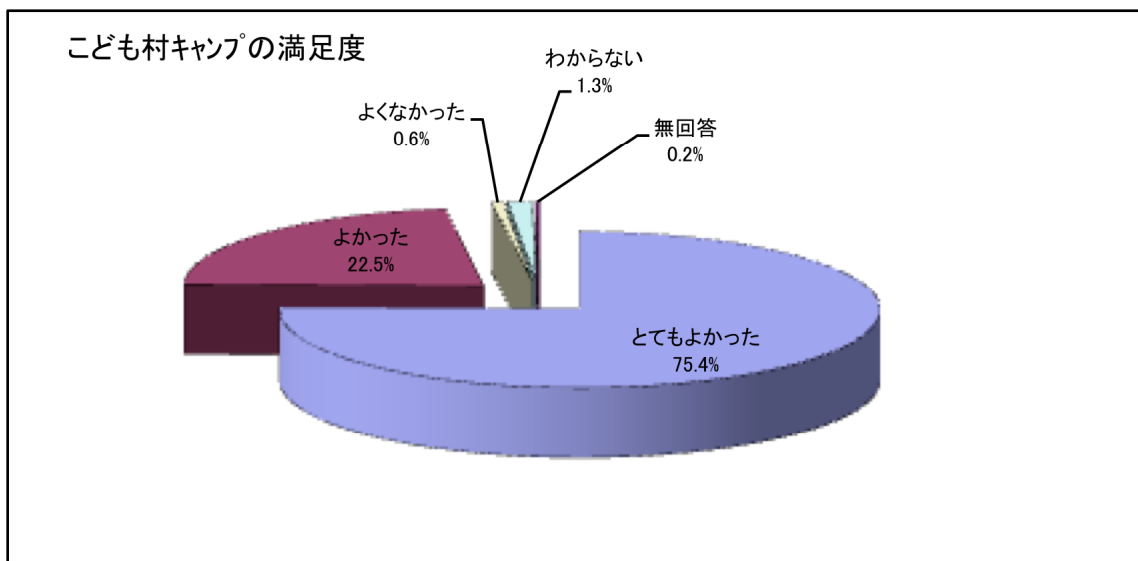
問3 「おんたけこども村キャンプ」に期待されたことで、期待通りだったものがありますか。(〇はいくつでも)



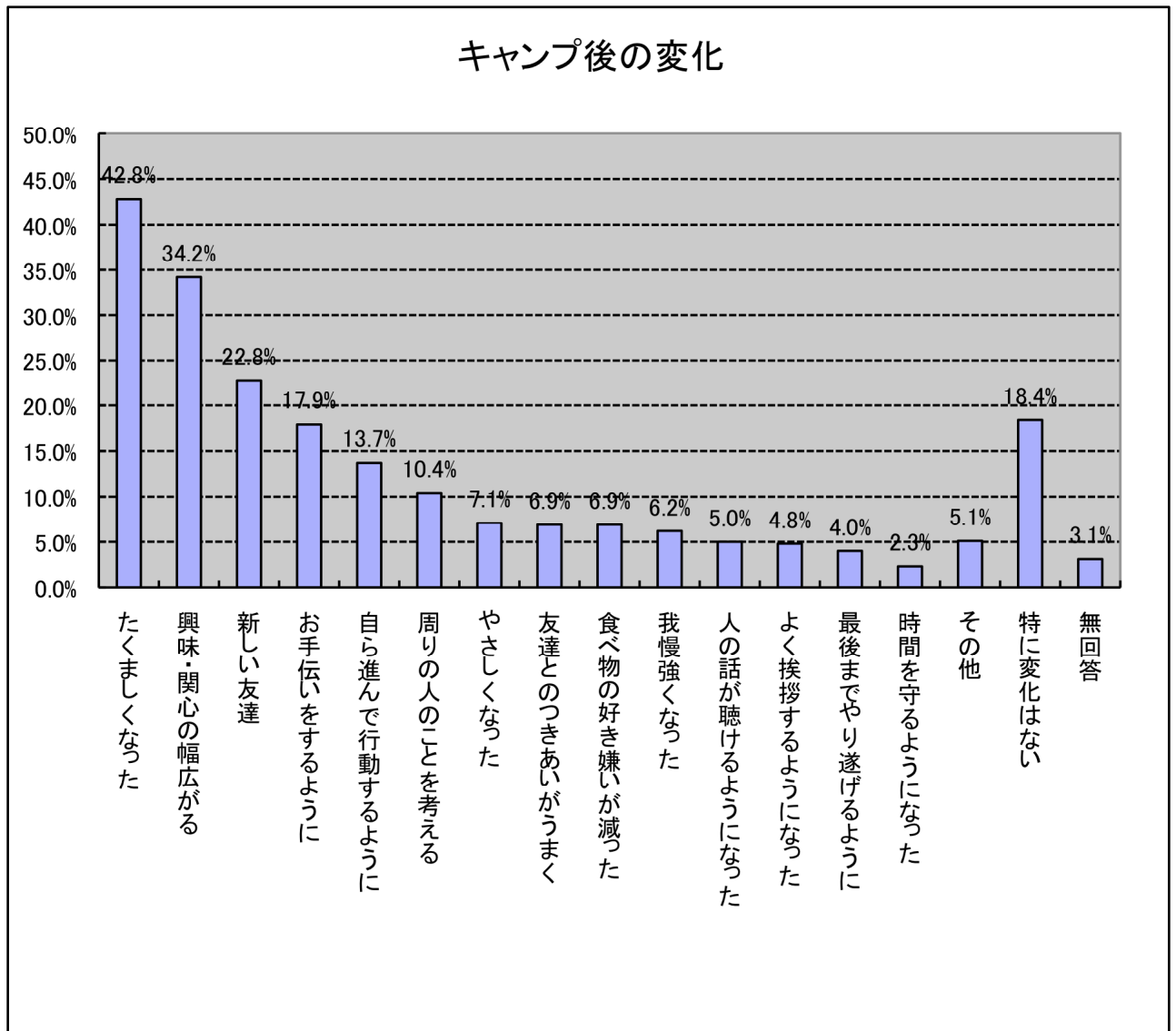
その他内容

- | | |
|------------------------------|------------|
| ・親の子離れ | ・食の大切さ、大変さ |
| ・最初から何も期待していなかったなので、何も感じません。 | ・料理作り |

問4 「おんたけこども村キャンプ」に参加してよかったですでしょうか。(〇は一つだけ)



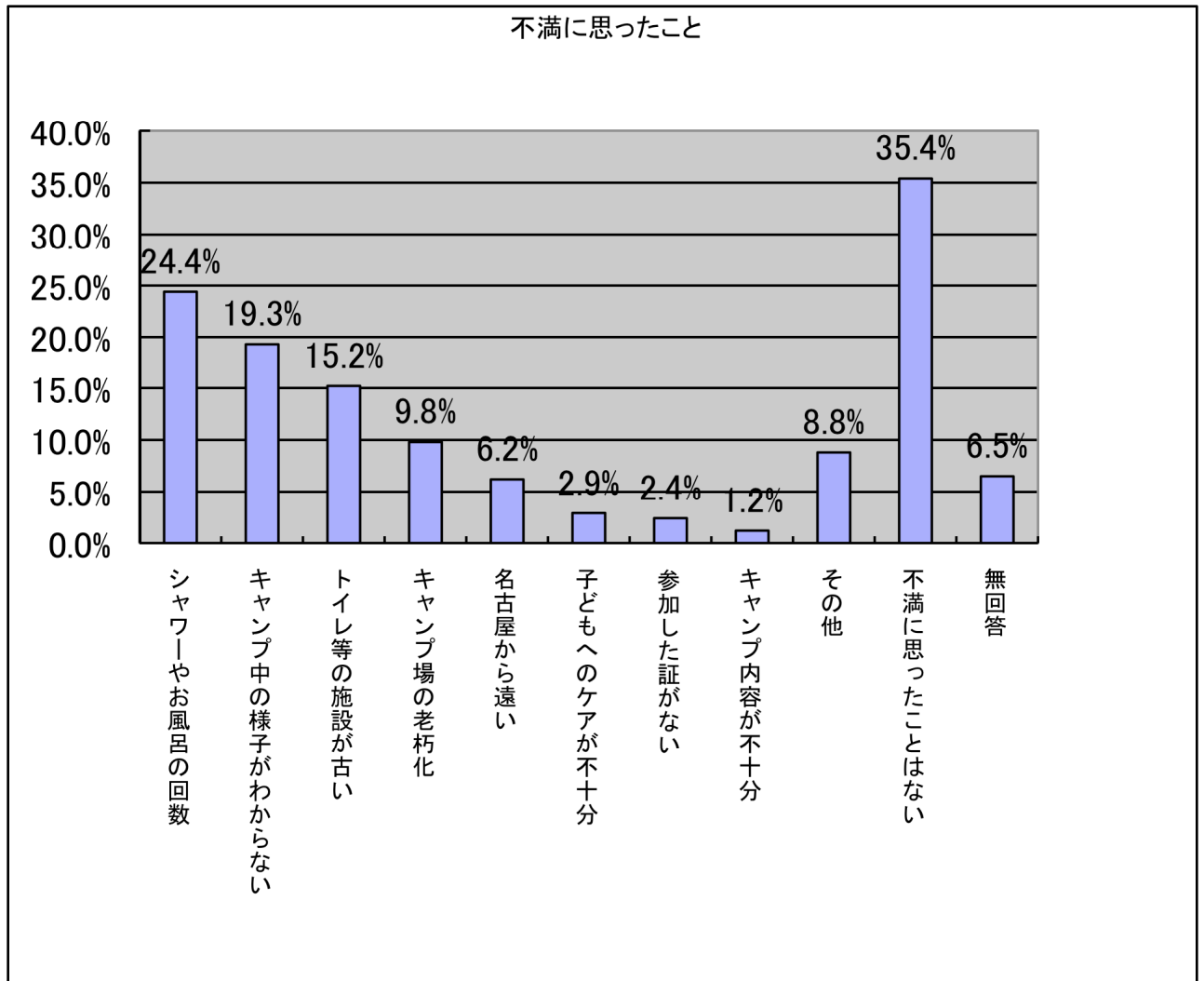
問5 キャンプから帰って、お子さんに変化はあったでしょうか。(〇はいくつでも)



その他内容

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・早寝、早起きになった。(3件) ・自信がついた。(3件) ・料理に興味を持ちました。 ・野菜のカットが上手になった。 ・親も子離れできた。 ・普段の生活のありがたみがわかった。 ・声が大きくなった。 ・自然を大切にするようになりました。 ・しっかりすると思っていたら逆に甘えて何もしない ・自分の体験を具体的に言葉で表現するのが上手になった。 ・毎回思うのですが、大きく、大きくなって帰ってきます。 | <ul style="list-style-type: none"> ・よくしゃべるようになった。(2件) ・いろいろな事に感謝する気持ちを持った。 ・和式トイレができるようになった。 ・口数が多くなった、元気になった ・意見を言えるようになった。 ・落ち着いた。 ・思い出をたくさん話してくれます。 ・すねるようになった。 ・口が悪くなった。 |
|--|---|
- など

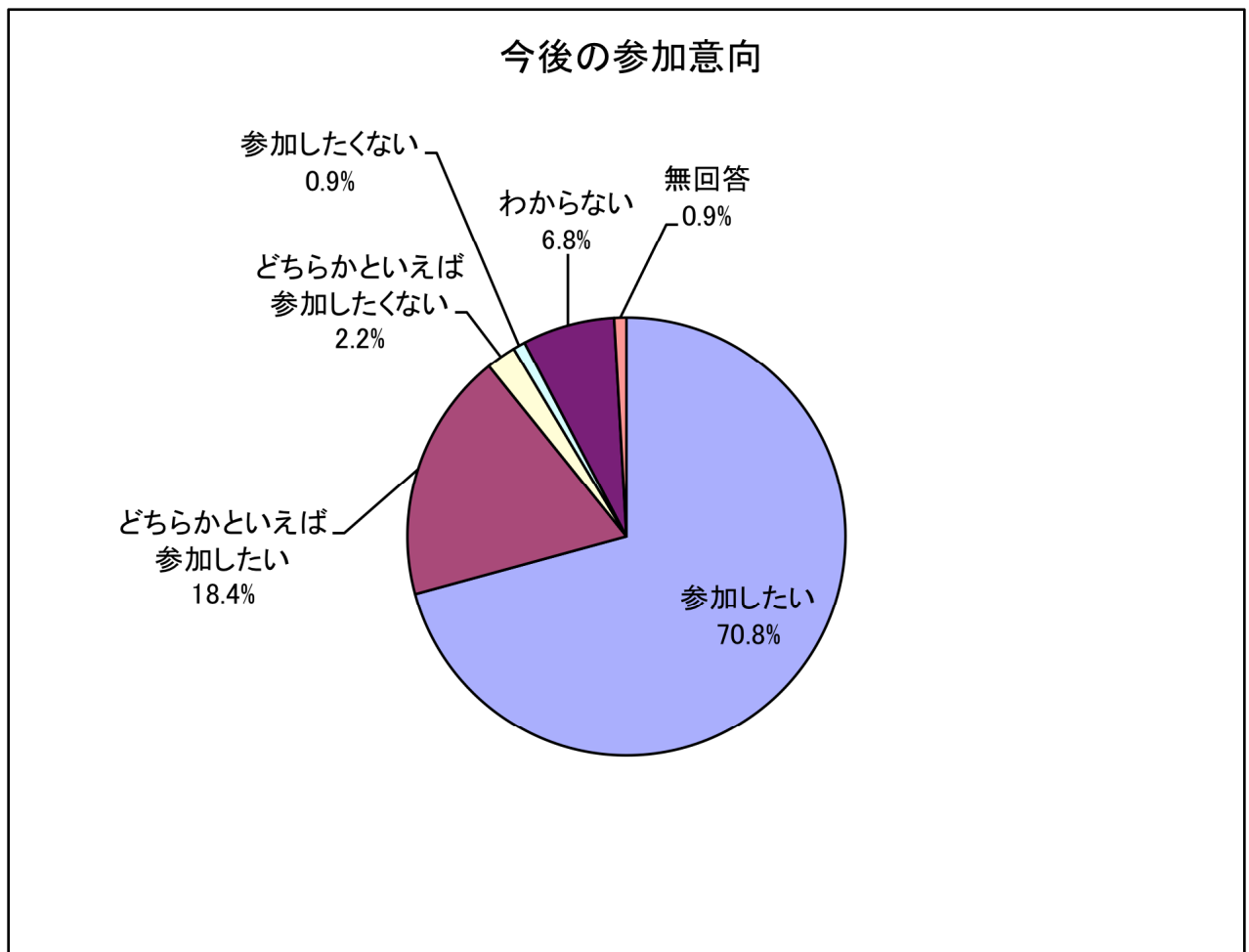
問6 「おんたけこども村キャンプ」に参加されて不満に思ったことがありますか。
(〇はいくつでも)



その他内容

- ・トイレが汚い、臭い、虫が多い。(5件)
- ・テントが狭い、きゅうくつ。(2件)
- ・シャワーの時間をもう少し長くしてほしい。
- ・様子がわからないので、不満もない。
- ・4～6年生でもキャビン泊のコースがほしい。
- ・意地悪な子がいて、少し嫌な思いをした。
- ・テントの中が臭い、虫が多い、寒い、暗い、雨が入ってくる。(6件)
- ・スケジュールがハード、食事準備の回数が多い、1つの工程の時間が短い。(3件)
- ・帰り時間があいまいで、おしえてダイヤルもつながらなかった。
- ・下着や靴下替えずにそのままですごし、臭くて大変だった。子供本人の意識がないのが残念。など
- ・トイレは和式がいい。(2件)
- ・寝袋やテントが臭い、汚い。(5件)
- ・シャワーやお風呂がある。
- ・お茶の量が少ない。
- ・雨の日の行事がわからない(2件)
- ・朝も歯がみがけるとよい。(2件)

問7 今後も「おんたけこども村キャンプ」に参加しますか。(○は一つだけ)



問8 「おんたけこども村キャンプ」について、ご意見やご要望があれば、自由にご記入下さい。

意見総数 692人 延760件

内訳

1 こども村キャンプに関する意見、要望、苦情など 345件

(1) こども村の様子や状況、Webによる情報提供、写真等に関するもの(48件)

様子がわからないので不安である。御岳の気候などが知りたい。こどもがどんなキャンプ生活を送っているか知りたい。ということから、ホームページでの画像UPやブログ等による情報提供を望む保護者が多い。また、活動状況を撮影した写真も有料でいいから欲しいという声も強い。

(2) こども村の内容等に関するもの(45件)

おんたけこども村では、自分達でできることは、自分達ですべて行うため、薪割りや飯盒炊飯、調理など初体験の子供にとって、厳しい、きついと感じる面と、都会では体験できないことで、むしろ楽しいと感じる面と両方ある。前者の面を捉え、改善を望む声と後者の面を高く評価する声に大きく分かれる。しかし、2の「評価や感想、感謝」のところで寄せられているように、多くの子供や保護者は、現在の活動内容を評価し、他のキャンプにはない、長所と考えているようである。

(3) キャンプ場施設や設備等に関するもの(58件)

キャンプ場は、オープン後35年を超え、多くの施設、設備が老朽化しているため、現代の快適な生活空間で暮らしている子供にとって、厳しいと感じることは多いと思われる。特に、テント生活は、雨が多く、朝と夜は冷え込み、また、虫が多い御岳の自然環境は、都会で暮らす子供にとって、耐え難いと感じることも多いと思われる。更に、世界で最も清潔で綺麗なトイレが当たり前の子供にとって、古い和式のトイレは、ある意味、カルチャーショックかもしれない。このため、管理棟とテント地区のトイレは21年度に改修したが、キャビンはまだであり、トイレも含め最低限の改修の実施が要望されている。

(4) お風呂やシャワー等に関するもの(37件)

毎日、お風呂に入るのが当たり前の現在の子供にとって、シャワーにも入れないのは、かなり嫌だと感じるようである。同じように思う親も多い。反面、山の生活で、お風呂やシャワーがないのが普通と考える子供や親もいる。多くの保護者や子どもは、お風呂やシャワーの回数増加や時間延長を要望しているが、キャンプで、毎日お風呂やシャワーが必要かどうかは、いろいろと見解が分かれるところではある。今回もいろいろと工夫してお風呂やシャワーの時間をとったが、現状が精一杯と思われる。

(5) 子どものケアに関するもの(36件)

親の代行をキャンプカウンセラーに期待する保護者も、残念ながらいるようであるが、2の「評価や感想、感謝」のところでも多く寄せられているように、子供の自立を感じたり、親の子離れを考える保護者も多いようである。子どものコミュニケーション力の不足が顕著な状況にあって、キャンプカウンセラーへの負担も大きくなっており、その確保、育成が困難となっているこども村の最大の課題と大いに関連すると思われる。

(6) 班構成やグループ行動、こども同士の関係等に関するもの(32件)

申込みグループ全員を同じ班にしてほしいという要望が多い反面、1人参加の子供も多く、排他的な仲良しグループの存在が、班全体の関係に与える影響を危惧する声もある。こども村キャンプの班構成の方針を、説明会などで予め説明していても、理解していない保護者もあり、子どもも、申し込んだグループは、同じ班となることを前提に申し込んでいる。残念ながら、こども村の班構成の方針とその理由が、十分浸透していないと思われる。

また、学年の違う子ども間の人間関係の構築は、コミュニケーション力不足の子どもにとって、難しいことも多いようである。この解決を、全面的に、キャンプカウンセラーをはじめ、こども村スタッフに期待する保護者も多く、キャンプに参加する子ども自身の問題と捉えていないことと、子どもなりの集団生活における知恵と工夫が身に付いていない点が、心配されるところである。

(7) こども村の募集人数、回数、日程、コース等に関するもの(22件)

希望者が全員参加できるように、募集人数や開催日程などの増加を要望する声が多い。その他、日程を短くあるいは長く、小学校高学年もキャビン泊としてほしい、という要望もある。兄弟参加のため、コースによる学年割りを弾力的に取り扱ってほしいという声も寄せられている。キャンプでも、テント泊を敬遠する子どももいるようである。

(8) 集合や解散時に関するもの(15件)

受付場所や手順がわかりにくい、出発式等の段取りが悪いという声がある。解散時の子どもの確認等に関する苦情もある。名古屋事務所の閉鎖や職員数の大幅な削減などのため、出発時、解散時のどちらにも、休暇村職員がおらず、キャンプカウンセラーと旅行会社職員に依存していることに起因することも多いかもしれない。

(9) 帰着時間などの問い合わせやお知らせ等に関するもの(15件)

今回から、帰着時間のお問い合わせの対応を、名古屋市が設置している「おしえてダイヤル」に依頼したが、かなり利用され(ピーク時延 145件/日)、概ね好評であるが、話し中でつながらない時もあり、苦情の原因となっているようである。ホームページや携帯サイトでの情報提供を望む声もある。

(10) その他の要望(37件)

お土産やお菓子、食事等に関するものなど

2 「参加して、とてもよかった」などの評価や感想、感謝など 375件

初めて参加した子どもの保護者からは、「予想以上に子どもが喜んでいる、成果があった」と、また、これまでに何回か参加経験のある子どもの保護者からも、「夏休みはおんたけこども村キャンプが恒例行事となっている。」と子ども村キャンプを高く評価する声が多く寄せられている。特に、キャンプ生活のすべてをこども自身で行い、大人は支援しかしないという、おんたけこども村の28年にも及ぶ伝統的な方針を支持する声が多い。施設が整備され、便利なキャンプ場で生活するよりも、自然のままで不便な生活を送る体験が、都会で暮らす子供に有意義と考える保護者が多いようである。子供が不便な生活をしたこと、不自由に感じたこと、虫や寒さなどの不快な体験をむしろ、子供の将来のためには貴重な体験であると肯定的に評価する保護者は、他のキャンプよりもいいと、おんたけこども村キャンプを高く評価しているように思われる。一方、そのような、こどもの「つらかった」という訴えをそのままに、否定的に評価する保護者は、前述のような、要望、苦情へとなるようである。

更に、事前に多くの研修を受け、自主活動等の研鑽を積み重ねてきたキャンプカウンセラーを賞賛する声が非常に多い。普段接する機会のあまりない、大学生のような若い世代との交流の機会もまた大いに貴重な体験と評価されているようである。将来は、キャンプカウンセラーになりたいと考える子どもも多く、また、それを期待している保護者もいるようである。

テレビゲーム、インターネット、携帯電話などの利用拡大により、他人との関係が、バーチャルや間接的な接触が多くなっている今日、何日も、初めて出会った他人と同じ空間を共有し、直接に接しながらコミュニケーションを図るという、文字通り同じ釜の飯を食うという人間関係は、現在の子供にとって、なかなか得がたい体験と思われる。

おんたけでの、「自然」と「キャンプカウンセラー」と「新たな友達」との出会いを通して、子供は成長していると評価し、感謝している保護者が大半と思われる。

3 休暇村やこども村キャンプの存続要望 34件

子どもの成長のため、他に代わるものがない、貴重な体験の機会である、こども村キャンプを存続させてほしいという声が多い。また、大学生になったらキャンプカウンセラーとなって、おんたけに戻ることを将来の目標としているので是非残してほしいという声もある。

4 その他 6件